20-2　東京・塩竈間几号水準点めぐり　大田原・白河
（レンタカー利用　距離約 45km）

練貫十九夜塔几号水準点

東京・塩竈間で、明治 9 年に行われた日本で最初の本格的な水準測量の（几号）水準点標石探しを主に、地形図を広げて陸羽街道の道筋らしきルートをマークしてから、現地を訪ねてみる。

道すじには、予想以上に多くの昔が残り、芦野宿うなぎの丁字屋にも立寄って、美味しい道歩きをする。

【道順】

00JR 那須塩原駅→01 几号水準点大田原金燈籠→02 几号水準点中田原供養塔→03 市野沢石仏→04 几号水準点練貫十九夜塔→05 鍋掛の一里塚→06 几号水準点鍋掛馬頭観音→07 几号水準点越堀界標→08 越堀大杉→09 三等三角点「一本木」→10 寺子の一里塚→11 寺子地蔵→12 夫婦石の一里塚→13 几号水準点芦野石地蔵→14 芦野氏陣屋裏門→15 芦野宿うなぎの丁字屋→16 芦野遊行柳→17 横岡石地蔵→18 几号水準点横岡べこ石→19 板屋の一里塚→20 四等三角点「脇沢」→21 寄居本郷→22 山中大久保から山中へ→23 境の明神→24 几号水準点寄居村石崖→25 泉岡（村）→26 几号水準点白坂馬頭観音→27 金売吉次兄弟の墓→28 几号水準点皮篭地蔵→29 几号水準点白河権兵衛稲荷→30 白河第一小の下から JR 白河駅へ

【街歩き解説】

00JR 那須塩原駅：東京・塩竈間几号水準点めぐり（大田原・白河間）を JR 那須塩原駅から開始する。

01 几号水準点大田原金燈籠：現存する大田原金燈籠は二代目で、太平洋戦争後に会津西街道から移設したといわれる。几号水準点が残っているということは、台座はそのまま再

利用されたの。文政 2 年（1819 年）に造られた物だという。西側に「江戸」、そして東側に「白川」と大きく彫られて、道標を兼ねたもののようである。

02 几号水準点中田原供養塔：金燈籠からは、北側の古い通りに昔が見える大田原神社や龍頭公園によるといい。もちろん、そちらが陸羽街道（奥州街道）だ。
蛇尾端を渡った先、中田原集落のとうふ店脇にある供養塔群の中に几号水準点が刻まれている。この先に中田原一里塚も残る。

03 市野沢石仏：市野沢にも石標として几号水準点が残存するのだが、今回発見できなかった。道すじには、石仏、馬頭観音が随所に残っている。

04 几号水準点練貫十九夜塔：練貫交差点手前の街道左側には、麻疹地蔵堂があり、その横には多数の石仏が並べられてある。練貫交差点の先、練貫公民館下にある十九夜塔に几号水準点が刻まれている。

05 鍋掛の一里塚：県道の急傾斜の切土の上にある慶長 9 年（1604）に設置されたという鍋掛の一里塚は、江戸より 41 番目のもの。さらに上に鍋掛神社がある。

06 几号水準点鍋掛馬頭観音：鍋掛宿には、歩道と車道の境にガードレール状に古石が並ぶ。那珂川を渡る手前、県道北側に大きな鍋掛馬頭観音があり、その台座に几号水準点が刻まれている。

07 几号水準点越堀界標：越堀集落の中ほど、浄泉寺境内には、文化 10 年（1813）ごろに建てられたという黒羽領境界石がある（那珂川縁にあったものを移転）。標柱には「従此川中東黒羽領」と刻まれてあり、背面には「於摂州大坂作江西横堀小島屋石工半兵衛」とある。几号水準点は台石にある。

08 越堀大杉：浄泉寺境内裏手には、みごとな大杉がある

09 三等三角点「一本木」：富士見峠からは富士山が見えたというから、今でも樹木の間から見えるのかもしれない。小さな高まりに「一本木」三角点があるが、それなりに森が深いので注意！

10 寺子の一里塚：江戸から 42 番目（42 里）の寺子の一里塚は、かつての位置から移動している。

11 寺子地蔵：寺子集落を抜け余笹川を渡る手前に寺子地蔵がある。几号水準点は、「寺子村街道中央大黒天台石」として、そして対岸にも「寺子村字黒川壺里程標」として設置されたがこちらは不明。

12 夫婦石の一里塚：明るい森の中に江戸から 43 番目の夫婦石一里塚がある。

13 几号水準点芦野石地蔵：芦野集落へ入る小橋のたもとに石地蔵があり、その台石に几号水準点が刻まれている。枡形を抜けて宿場へ入る。

14 芦野氏陣屋裏門：芦野宿は、かつて義経と弁慶、芭蕉もたどった奥州と都を結ぶ重要な位置にあったという。当地を治めた芦野氏の陣屋裏門が残っている。宿場に入ると、街道両側の家の軒先に屋号が書かれた常夜灯が設置されている。

15 芦野宿うなぎの丁字屋：風情の残る芦野宿には、うなぎの丁字屋のほか石の博物館、古い道標、この地にあった芦野氏の墳墓がある建中寺、宿の出口付近には新町地蔵尊ほかもある。

16 芦野遊行柳：遊行柳には、柳の精を遊行上人が念仏で成仏させたという言い伝えがある。西行法師が奥州を旅したとき「道のべに清水流るる柳かげ　しばしとてこそたちどまりつれ」と詠んだ地を、松尾芭蕉が奥の細道で「田一枚　植て立去　柳かな」と紹介してから有名になったという。芭蕉と蕪村の句碑がある。

17 横岡石地蔵：横岡集落にも石地蔵がある。大田原から先の道筋には小さな脇道がいくつも残っていて、そこは旧街道を示している。

18 几号水準点横岡べこ石：嘉永 10 年（1848）の芦野宿の問屋の主が建てた、3500 文字をして孝行・善行などの人の道を説く、牛の形に似た石碑。横岡べこ石にも、几号水準点が刻まれている。

19 板屋の一里塚：旧街道脇にある板屋の一里塚。

20 四等三角点「脇沢」：県道脇の高まりにある四等三角点「脇沢」からは、街道筋の展望が開ける。

21 寄居本郷：ここに限らず旧道を通れば、趣のある建物が多く残っている。赤い屋根のある塀が特徴的な寄居本郷の旧家。

22 山中大久保から山中：「寄居村大久保壺瓢箪石」にも几号水準点が刻まれていたが、今は不明。山中集落には大谷石の蔵が残っている。

23 境の明神：境の明神は、奥州街道を通行した人々の道中安全の神として信仰を集めた。玉津島明神（女神）と住吉明神（男神）を国境の神として祀っている。それぞれの国境側に「境の明神」として社をかまえる。境内には越後新発田藩溝口家や南部藩士などが

寄進した灯篭が並び、松尾芭蕉の「風流のはじめや奥の田植え唄」などの句碑や歌碑、表情豊かな石仏が建つ。

24 几号水準点寄居村石崖：明神峠の崖には、几号水準点が刻まれている。この場所が永く保存されることを見とおした明治期の技術者と、これを発見した者にも感心する。

25 泉岡（村）で：道筋には大谷石造りの蔵がたくさんあるが、ここ泉岡集落では、白く塗られた立派な蔵に出会った。隣の観音寺には、戊辰戦争で戦死した大垣藩士の墓も残る

26 几号水準点白坂馬頭観音：白坂集落の先にある白坂馬頭観音台石にも、几号水準点が刻まれている。

27 金売吉次兄弟の墓：室町時代の建築と思われる金売吉次兄弟の墓。金売吉次三兄弟は、奥州平泉と京都を行き来して砂金取引をしたといわれ、1174 年に当地で群盗に襲われた。里人はそれを憐れんでこの地に葬り供養した。

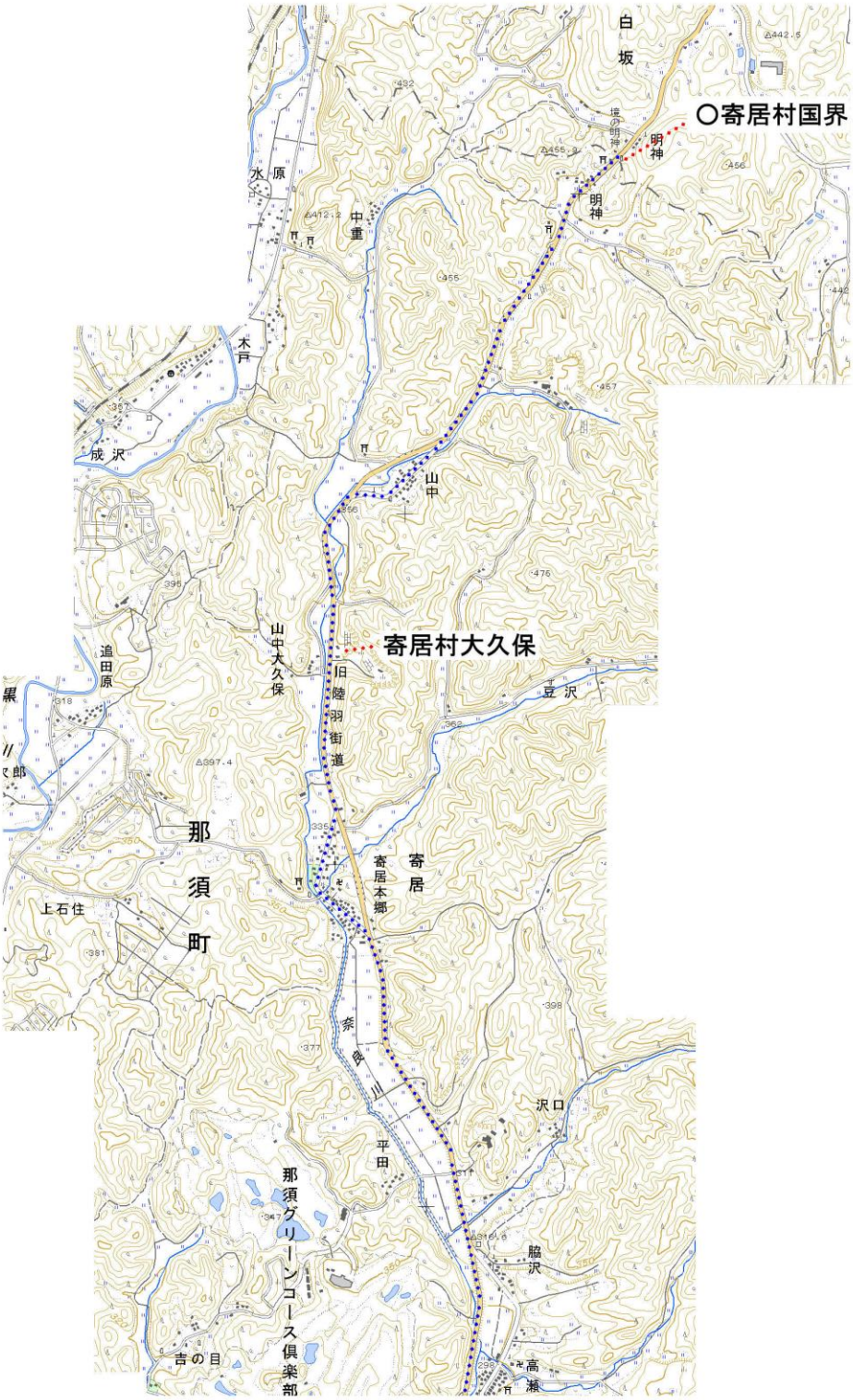
28 几号水準点皮篭地蔵：皮篭集落にも石地蔵があって、その台石に几号水準点が刻まれている。

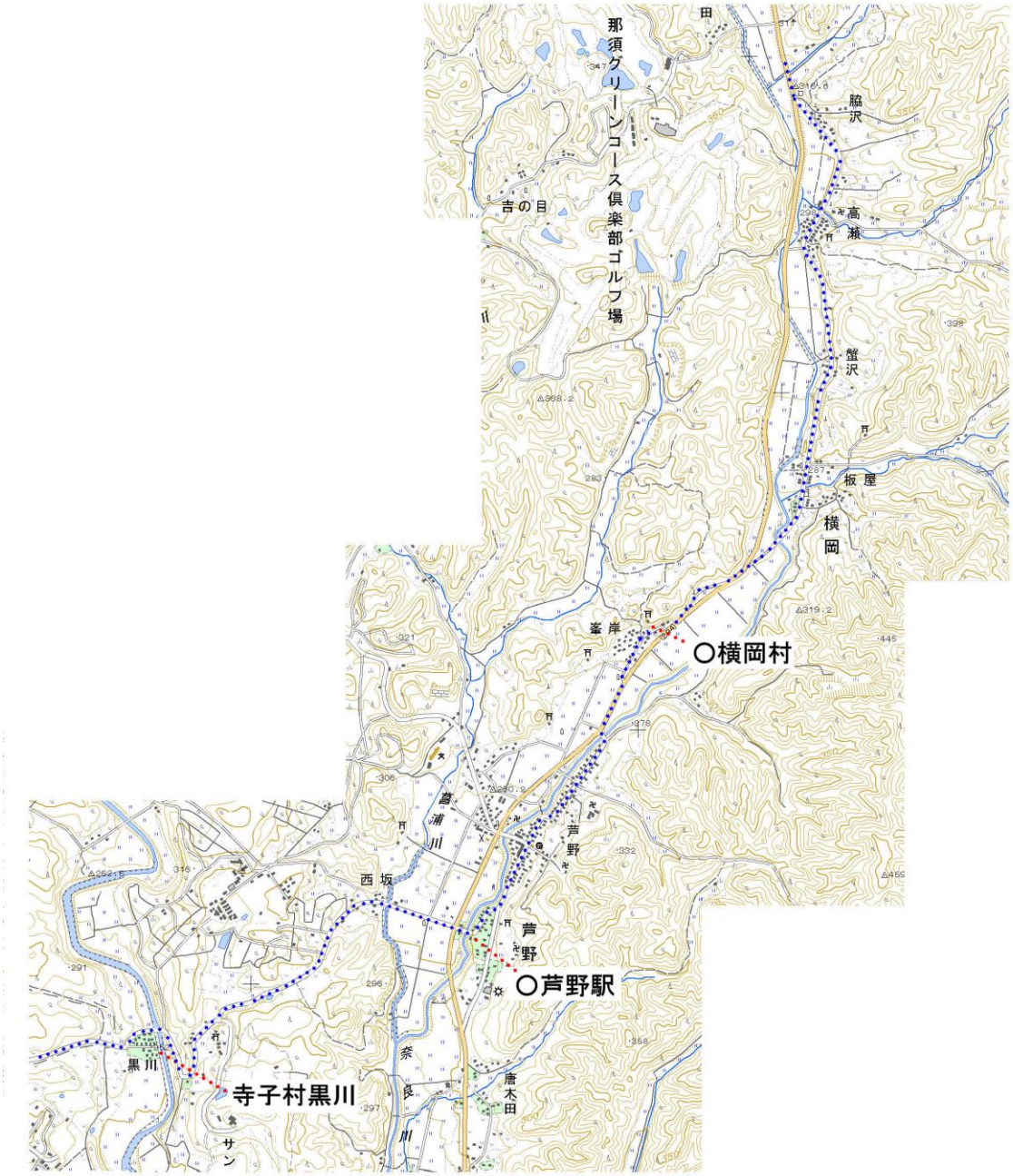
29 几号水準点白河権兵衛稲荷：石切場というバス停前は、戊辰戦役「戦死墓」や、三百四名の名を刻んだ「会津藩銷魂碑」、「田邊軍次之墓」などの石碑が、向かい側には、「長州大垣藩戦死六名墓」もある。その先、白河権兵衛稲荷の燈籠にも几号水準点が刻まれているが、その部分には亀裂が入っている。

30 白河第一小の下から JR 白河駅へ：白河への経路を、小さな道すじに選んでみた。中々いい道だった。白河市街にも、白亜のハリストス正教会聖堂、南湖など見どころは多くあるが今回は省略する。

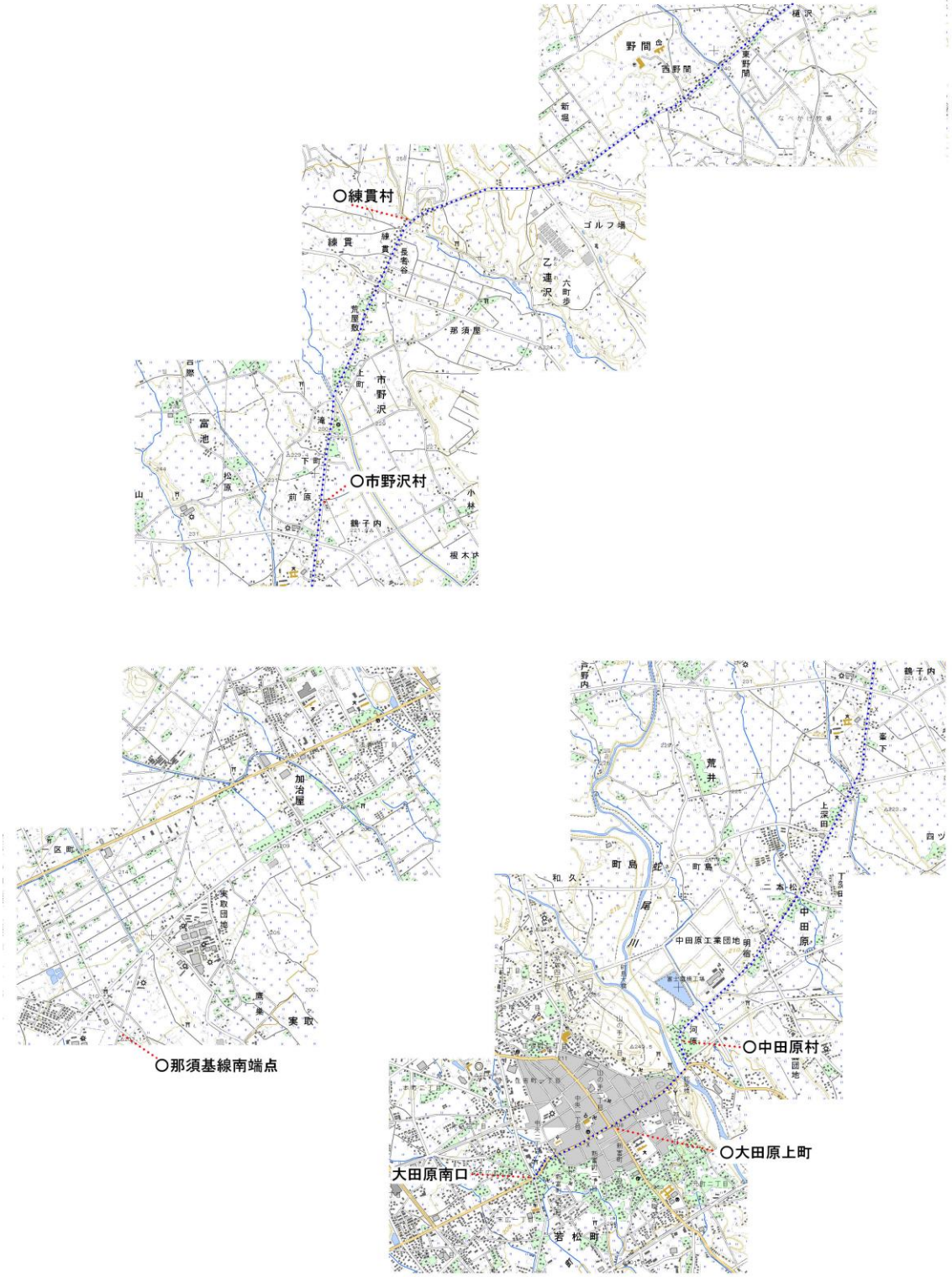
ルートマップ

萱根村
萱根
女石
向寺
富士見山
白河町
白井掛
三本松
栄町
白河
石切場
松並
○白河町権兵衛
小丸山
南湖公園
鬼越
影鬼越
大坂山
一里段
勝多石
○皮篭村
三輪台
大倉矢見
皮籠
白坂
愛宕山
○白坂村馬頭観世音
松ヶ苗
泉岡
白坂
○寄居村国界
明神


○寄居村国界
白坂
明神
水原
中重
木戸
成沢
山中
寄居村大久保
追田原
山中大久保
旧陸羽街道
豆沢
那須町
寄居
寄居本郷
上石住
平田
沢口
脇沢
那須グリーンコース倶楽部
吉の目
高瀬


那須グリーンコース倶楽部ゴルフ場
吉の目
脇沢
高瀬
蟹沢
板屋
横岡
○横岡村
鍋岸
芦野
西坂
芦野
○芦野駅
黒川
寺子村黒川
唐木田

寺子村黒川
黒川
豊岡
豊岡ランド
寺子
那須塩原市
赤沼
石田坂
寺子
寺子村街道
望田
数ケ室
富士見峠
上の台
杉渡土
○腰堀那珂川
越堀
鍋掛
○鍋掛那珂川
樋沢



+＊＊＊+　オフィス　地図豆　yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+